

# 東奥信用金庫

## 地域内企業の業況レポート

No. 131

2025年10～12月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81

TEL 0172-33-8404 業務部 -2025.12.31-

HP <https://www.shinkin.co.jp/toshin/>

## 《今回調査のポイント》

### ● 10～12月期（今期）業況判断DI値 やや改善で推移

10～12月期の業況判断DI値は、前回調査比1.3ポイント上昇の▲4.9とやや改善し、前回予想値(▲8.0)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で1.0ポイント上昇の2.1、売上数量が1.8ポイント上昇の▲0.3、利益でも0.3ポイント上昇の▲6.3と、すべての項目でやや改善となった。

今期DI値は前期に比べやや改善し、前年同期(▲2.4)からはやや悪化となる。主要産業であるりんごの主力品種取扱い開始等により卸売業、製造業、小売業が改善。小口リフォーム中心に建設業も改善した。運輸業ではりんごの生産量減少により輸送量が減少し横ばい推移となった。飲食業、サービス業では材料費高騰や人件費負担増加の影響が見られた。不動産業は閑散期となり低調に推移した。



業況お天気図

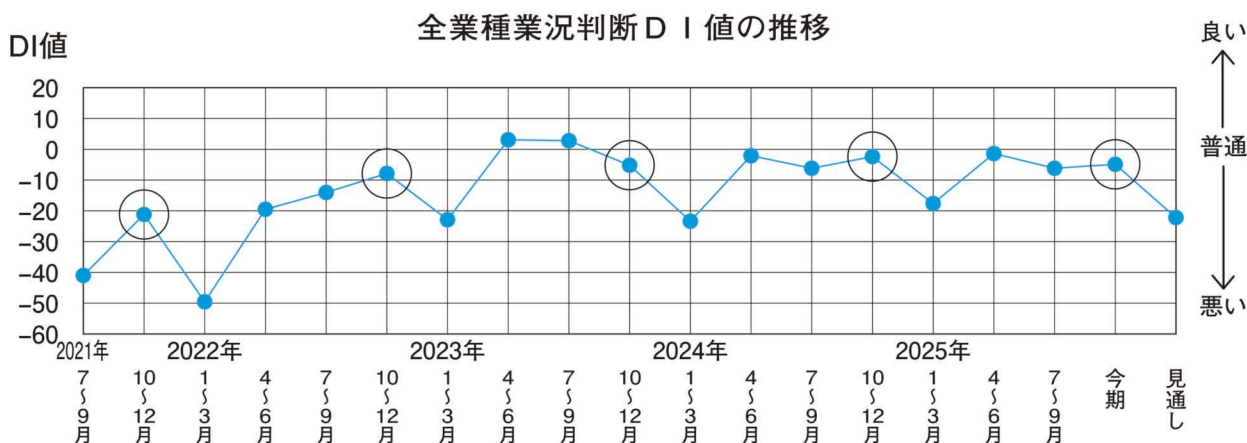
### ● 1～3月期（来期）各項目別DI値 悪化を見込む

1～3月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比17.4ポイント低下の▲22.3と悪化の見通しとなった。項目別では、売上・受注で20.9ポイント低下の▲18.8、売上数量が20.6ポイント低下の▲20.9、利益でも17.4ポイント低下の▲23.7となった。

業種別DI値は新年会等により飲食業、異動時期を迎えるため不動産業が改善、卸売業は2月の春節向け輸出は期待しているが、国内向けは苦戦を予想し横ばいの見通しとなった。降雪期に入り閑散期となることから、その他の業種は悪化予想となった。総じて物価高騰の影響、人件費増加等の悪化要因が継続されており、経費増加が利益を圧迫している状況に変わりはなく、今後の業況についても厳しい見方となった。



業況予想お天気図



### お天気図

好調 ←



→ 低調

(お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

全業種総合

回答企業数287企業（回答率98.97%）

概況

～総合的業況判断DI値 やや改善で推移～

総合的業況判断DI値は、前期比1.3ポイント上昇の▲4.9とやや改善となった。

業種別での業況判断DI値は、製造業が28.1ポイント上昇の▲6.3、卸売業が9.3ポイント上昇の▲28.6、建設業が3.5ポイント上昇の12.1、小売業が3.4ポイント上昇の▲2.2、運輸業が横ばいの▲30.0、不動産業が11.1ポイント低下の▲22.2、サービス業が11.9ポイント低下の▲2.4、飲食業が36.9ポイント低下の▲15.8となった。4業種が改善し、3業種は悪化、1業種は横ばいとなった。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」140先、「人員不足」101先、「売上の低迷・減少」81先、「利幅の縮小」77先、「経費の増加」62先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は12先減少、「人員不足」は横ばい、「売上の低迷・減少」は7先減少、「利幅の縮小」は5先増加、「経費の増加」は1先増加となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が36先で前期比3先減少、設備投資実施予定割合は12.5%で前期比1.0%減少となった。業種別では、飲食業（土地・建物等）21.1%、サービス業（土地・建物等）19.0%、製造業（土地・建物等）15.6%、不動産業（その他）11.1%、卸売業（土地・建物等）10.7%、小売業（建物・機械等）10.1%、運輸業（機械）10.0%、建設業（土地・建物等）8.6%であった。

資金繰りDI値は、前回調査比2.7ポイント上昇の▲8.4とやや改善、今期借入した企業は20.3%と前回調査時（16.6%）より3.7%増加となった。

来期の見通し

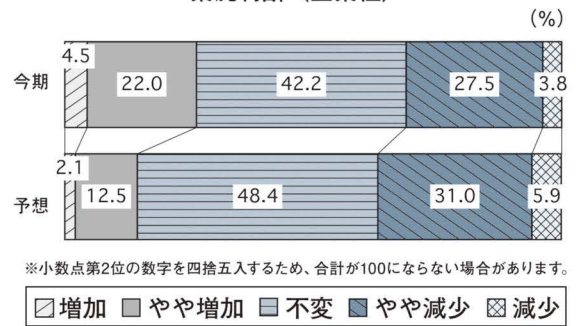
～総合的業況判断DI値 悪化の見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比17.4ポイント低下の▲22.3と悪化の予想となった。

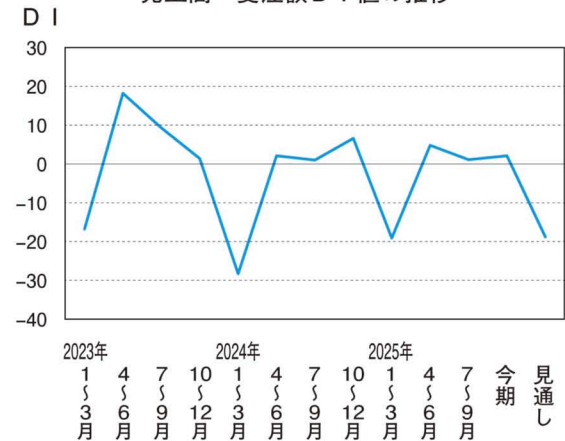
業種別では、飲食業が15.8ポイント上昇の0.0、不動産業が11.1ポイント上昇の▲11.1、卸売業が横ばいの▲28.6、製造業が15.6ポイント低下の▲21.9、サービス業が19.0ポイント低下の▲21.4、運輸業が20.0ポイント低下の▲50.0、小売業が21.4ポイント低下の▲23.6、建設業が34.5ポイント低下の▲22.4となり来期の見通しは、2業種が改善し、5業種が悪化、1業種は横ばいとなった。

今期資金手当てした先が20.3%、今後資金手当て等借入を予定している先は16.4%となっている。

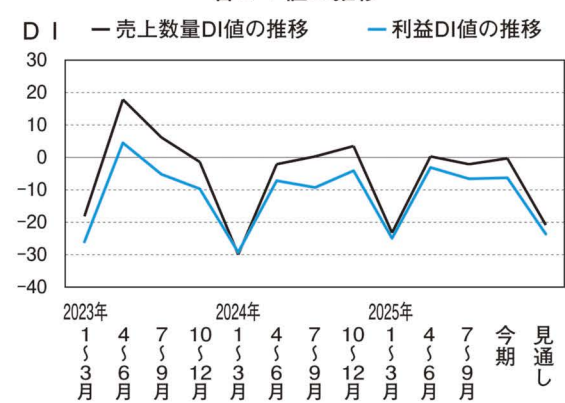
業況判断（全業種）



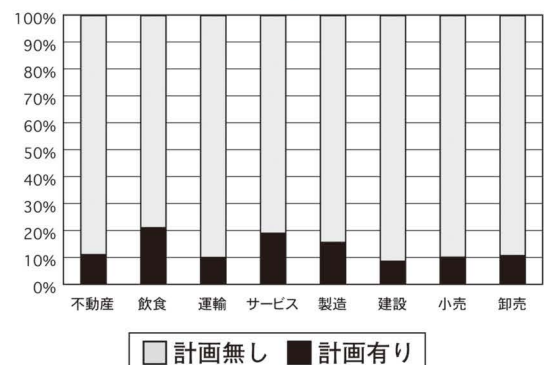
売上高・受注額DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無



卸売業

回答企業28企業

概況

～業況判断D I 値 やや改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比9.3ポイント上昇の▲28.6とやや改善するも、前回調査予想値(0.0)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で45.7ポイント上昇の25.0、売上数量が49.0ポイント上昇の21.4、利益でも45.3ポイント上昇の14.3と、すべての項目で大幅改善となった。  
 主要産業であるりんごは主力品種の取扱いが開始となり、売上・数量・利益ともに改善した。雪害・干ばつ等により生産量減少し仕入価格の高値基調は継続している。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

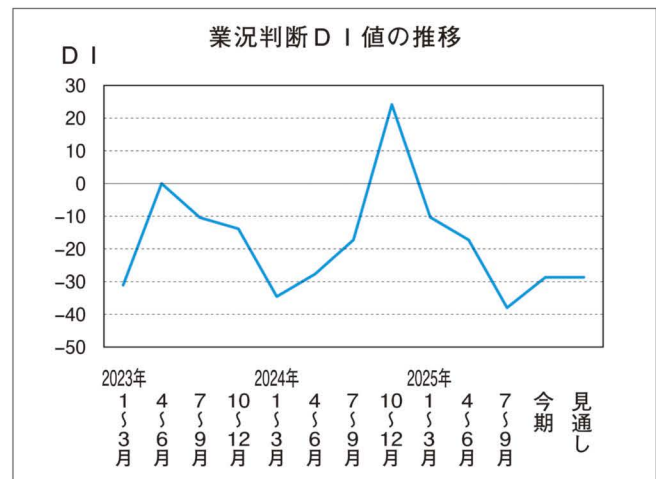
酒類卸売業では10月の値上げで売上やや減少するも、年末年始の会合等により売上増加が見込める。  
 米穀卸売業では、価格高騰により買い控えが発生している。  
 自動車関連部品卸売業はタイヤ交換等による需要は例年並みに推移。  
 食料品卸売業(水産物)では、高水温、高波、高潮の影響による漁獲量減少で価格高騰しており、売上に影響している。

来期の見通し

～業況判断D I 値 横ばいの見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比横ばいの▲28.6の見通しである。項目別では、売上・受注で25.0ポイント低下の0.0、売上数量が32.1ポイント低下の▲10.7、利益でも35.7ポイント低下の▲21.4と、すべての項目で悪化の見込みとなった。  
 りんごの国内販売向けは苦戦を予想、2月の春節に向けて輸出向けは増加を予想。価格高騰の影響および経費の増加に伴う利幅縮小を懸念する事業者もある。



小売業

回答企業89企業

概況

～業況判断D I 値 やや改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比3.4ポイント上昇の▲2.2とやや改善し、前回調査予想値(▲6.7)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で4.6ポイント上昇の7.9、売上数量が7.8ポイント上昇の5.6、利益でも2.2ポイント上昇の0.0と、すべての項目で改善となった。  
 クリスマスや年末年始により菓子販売、食料品販売業は好調推移するも、仕入価格高騰や経費増加による影響もあり、価格転嫁にて利益確保に努めている。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

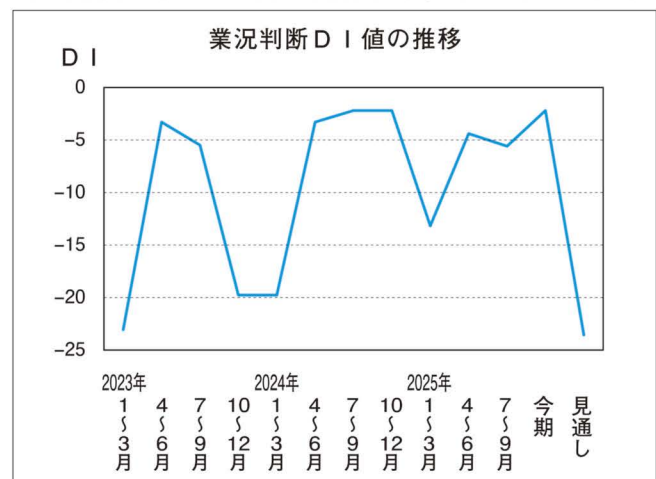
青果物販売業は、りんごの取扱いが始まり、売上は順調に推移するも、高値基調であり品質の良い商品の仕入れに課題がある。  
 燃料等小売業は、需要期を迎え、例年並みに推移している。  
 衣料品販売業では、冬物衣料が好調に推移した。来期は学生服の取扱いや例年オーダースーツの売上も伸びるため期待している。

来期の見通し

～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比21.4ポイント低下の▲23.6と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で25.9ポイント低下の▲18.0、売上数量が21.3ポイント低下の▲15.7、利益でも22.5ポイント低下の▲22.5と、すべての項目で悪化見通しとなった。  
 バレンタイン等により菓子販売業や、需要期を迎える燃料小売業は期待あるも、その他業種は閑散期となり悪化の見通しとなる。



建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断D I 値 やや改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比3.5ポイント上昇の12.1とやや改善し、前回調査予想値(▲5.2)も上回る結果となった。項目別では、売上・受注で6.9ポイント低下の6.9、売上数量が8.6ポイント低下の3.5、利益でも12.1ポイント低下の▲8.6と、すべての項目で悪化となった。

住宅建築業は、前期に続き、昨年度の雪害工事や新築価格高騰によりリフォーム工事の受注が多い。

来期の見通し

～業況判断D I 値 大幅悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比34.5ポイント低下の▲22.4と大幅悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で39.7ポイント低下の▲32.8、売上数量が36.3ポイント低下の▲32.8、利益でも22.4ポイント低下の▲31.0と、すべての項目で悪化見通しとなった。

降雪期となり、除雪受注業者以外は工事等減少し閑散期となることから悪化の見通しとなった。

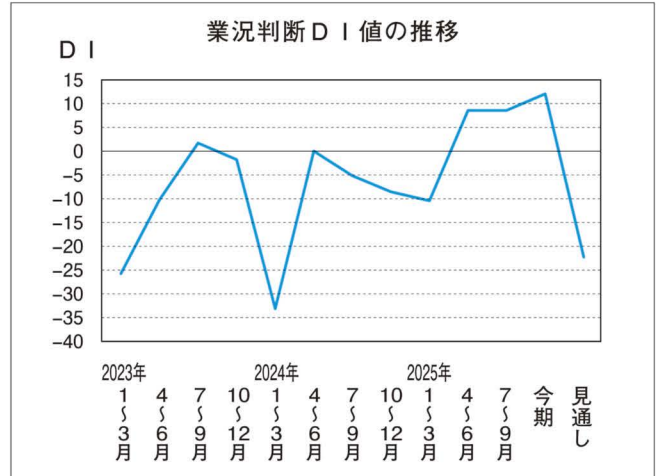
分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

造園工事業では、雪囲い作業等により例年並み売上確保するも、資材や薬剤の価格高騰により利益を圧迫している。

電気工事業は例年並み受注は確保しており、材料価格高騰に対しても価格転嫁できていることから、利益も確保できた。

土木工事業、管工事業は公共工事等により受注確保しているものの、材料費の高騰および人員不足の問題が発生している。



製造業

回答企業32企業

概況

～業況判断D I 値 改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比28.1ポイント上昇の▲6.3と改善し、前回調査予想値(▲12.5)も上回る結果となった。項目別では、売上・受注は15.7ポイント上昇の6.3、売上数量が15.6ポイント上昇の3.1、利益でも3.1ポイント上昇の0.0と、すべての項目で改善となった。

食料品製造業では、りんご加工品製造がはじまり繁忙期を迎えるも、仕入価格高騰により受注量抑制し利益確保に努める。りんご加工以外でも原材料費高騰し値上げを実施している事業者もある。

来期の見通し

～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比15.6ポイント低下の▲21.9と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で18.8ポイント低下の▲12.5、売上数量が15.6ポイント低下の▲12.5、利益でも15.6ポイント低下の▲15.6と、すべての項目で悪化見通しとなった。

菓子製造業では、年末年始や卒業式等学校関連需要に期待あるも、総じて低調推移となり、原材料高騰、経費増加による利益圧迫を危惧する事業者が見られ悪化の見通しとなった。

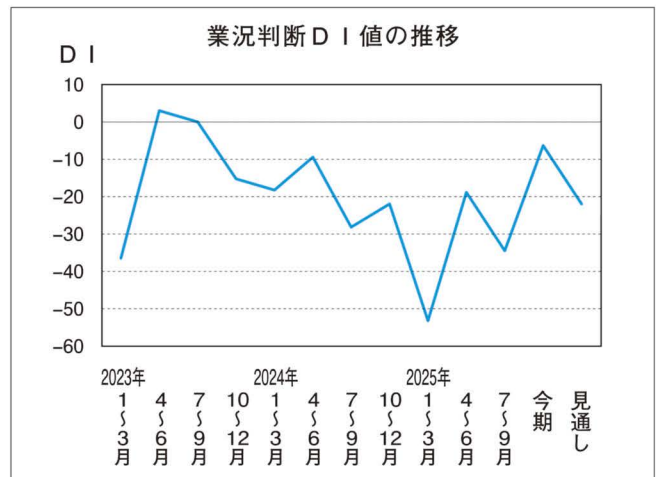
分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

鉄鋼加工製造業では、経費先行、外注費増加等課題あるも、受注状況は安定しており業況に大きな変化はない。

建設用金属資材製造業では、受注安定しており例年並みに推移するも原材料高騰、経費増加により利益を圧迫している。

木材、木製品製造業では、農家や公共工事請負業者からの受注が増加し好調に推移した。来期は降雪期により受注減少見通し。



サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比11.9ポイント低下の▲2.4と悪化するも、前回調査予想値(▲16.7)は上回る結果となった。項目別では、売上・受注で4.8ポイント低下の▲4.8、売上数量が11.9ポイント低下の▲9.5、利益では2.4ポイント上昇の▲4.8となった。  
旅館、ホテル業では、紅葉シーズンは堅調であったがそれ以外の時期は低調に推移。熊被害の影響による観光客減少も見られた。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

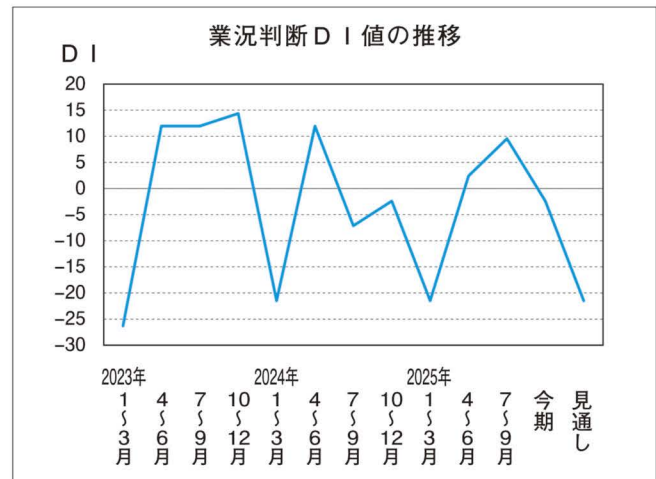
自動車整備、钣金業では、大きな変化は見られないが、部品代等の値上げが懸念される。  
クリーニング業では、夏物のクリーニング依頼により売上、利益ともに増加。  
各種リース業では、物価高騰による経費削減等により契約先からの解約が相次ぎ売上、利益ともに減少している。

来期の見通し

～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比19.0ポイント低下の▲21.4と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で16.6ポイント低下の▲21.4、売上数量が16.7ポイント低下の▲26.2、利益でも16.6ポイント低下の▲21.4と、すべての項目で悪化の見通しとなった。  
自動車整備・钣金業は修理依頼等増加する時期であるが、他の業種は降雪期となり閑散期となることから悪化見通しとなった。



運輸業

回答企業10企業

概況

～業況判断D I 値 横ばいで推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比横ばいの▲30.0、前回調査予想値(0.0)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で横ばいの▲40.0、売上数量が横ばいの▲40.0、利益でも横ばいの▲40.0となった。  
貨物運輸業はりんごの取扱いが始まるが、りんごの収穫量減少により輸送量も減少している。その他野菜等の出荷も減少しており、売上、利益ともに減少となった。

分野別の状況

～総合的業況は横ばいで推移～

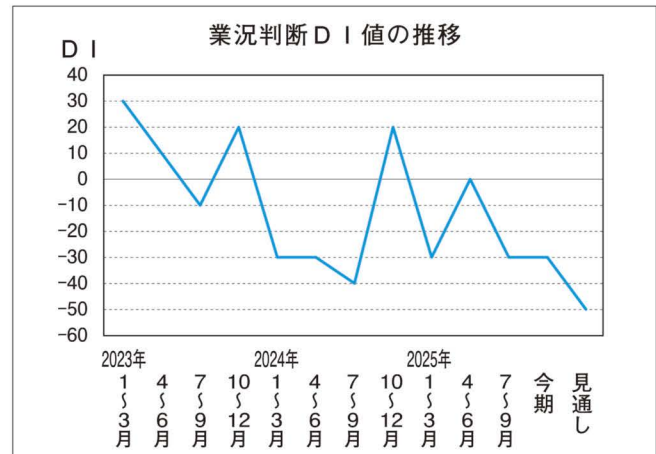
旅客運送業では、学校関連で熊被害によりキャンセル発生するも、秋の観光バスは受注好調に推移した。また、国交省によるバス料金改定の指示により値上げも実施。  
建設資材運送業では、例年並みの受注確保し、燃料費高騰分も価格転嫁できていることから利益確保となった。今後は燃料費低下による利益増加に期待している。

来期の見通し

～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比20.0ポイント低下の▲50.0と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で30.0ポイント低下の▲70.0、売上数量が30.0ポイント低下の▲70.0、利益でも30.0ポイント低下の▲70.0と、すべての項目で悪化となった。  
貨物運輸はりんご、野菜等の農作物の輸送量減少が続くと予想され、悪化の見通しとなった。



飲食業

回答企業19企業

概況

～業況判断D I 値 大幅悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比36.9ポイント低下の▲15.8と大幅悪化するも、前回調査予想値(▲21.1)は上回る結果となった。項目別では、売上・受注で52.6ポイント低下の▲26.3、売上数量が52.6ポイント低下の▲26.3、利益でも36.8ポイント低下の▲42.1と、すべての項目で大幅悪化した。  
忘年会等の予約は好調に推移しているが、米をはじめ材料費高騰や最低賃金上昇による人件費負担増加が利益を圧迫している。

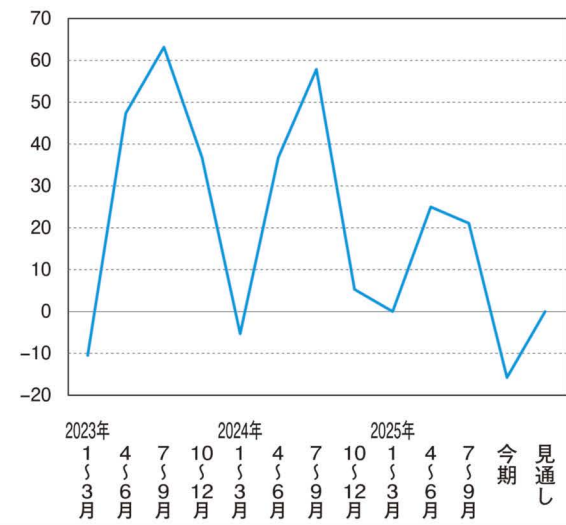
来期の見通し

～総合的業況判断は改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比15.8ポイント上昇の0.0と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で31.6ポイント上昇の5.3、売上数量が21.0ポイント上昇の▲5.3、利益でも31.6ポイント上昇の▲10.5と、すべての項目で改善の見通しとなった。  
食堂は降雪期となり客足が鈍くなる見通しであるが、その他レストラン、居酒屋等は新年会、歓送迎会の時期を迎えるため業況改善を期待している。

業況判断D I 値の推移



不動産業

回答企業9企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比11.1ポイント低下の▲22.2と悪化し、前回調査予想値(11.1)も下回る結果となった。項目別では、売上・受注で33.3ポイント低下の▲33.3、売上数量が11.1ポイント低下の▲22.2、利益でも22.2ポイント低下の▲33.3と、すべての項目で悪化となった。  
賃貸収入は安定しており業況に大きな変化はない。その他仲介業は閑散期となり売上減少、物価高騰の影響もあり利益も減少している。

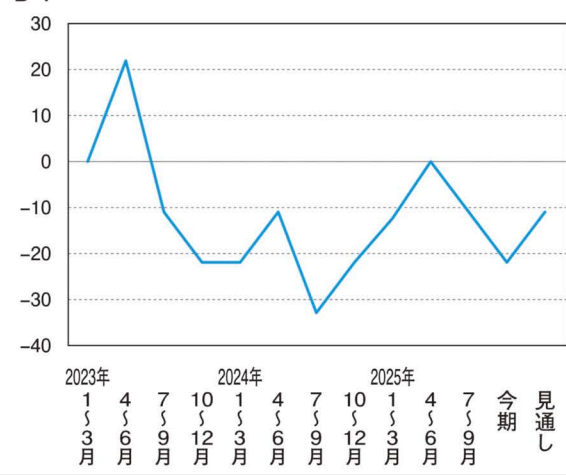
来期の見通し

～総合的業況は改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比11.1ポイント上昇の▲11.1と改善の見通しである。項目別では売上・受注で33.3ポイント上昇の0.0、売上数量が11.1ポイント上昇の▲11.1、利益でも22.2ポイント上昇の▲11.1と、すべての項目で改善となった。  
春先に向けて繁忙期を迎えるため期待している。建売住宅販売業者は新築価格高騰により安価な価格帯が好調に推移している。

業況判断D I 値の推移



調査要領

- 調査時期 2025年12月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内290社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」「やや増加(やや上昇)」したとする回答と、「減少(下降)」「やや減少(やや下降)」したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。